

1. 学歴

- 1970年 3月 一橋大学社会学部卒
1970年 4月 一橋大学大学院経済学研究科修士課程入学
1972年 3月 同修了
1972年 4月 同博士後期課程入学
1973年 4月 カルカッタ大学歴史学部博士課程入学
1978年 2月 同修了 (Ph.D.(Arts)in History)
1978年 3月 一橋大学大学院経済学研究科博士後期課程退学

2. 職歴・研究歴

- 1978年 4月 一橋大学経済学部助手 (特別研究生)
1979年 4月 一橋大学経済学部専任講師
1981年 10月 一橋大学経済学部助教授
1983年 10月 バングラデーシュ国ラングプル県にて農村調査 (1984年3月まで)
1985年 10月 バングラデーシュ国ラングプル県にて農村調査 (1986年3月まで)
1988年 4月 一橋大学経済学部教授
1995年 5月 ロンドン大学アジア・アフリカ学院客員研究員 (1995年8月まで)
1995年 10月 カルカッタ大学歴史学部客員教授 (1996年2月まで)
1998年 4月 一橋大学大学院経済学研究科教授, 経済学部教授
2002年 8月 ロンドン短期在外研究

3. 学内教育活動

A. 担当講義名

(a) 学部学生向け

経済史入門, 地域経済概論 B, 地域経済論 B (貧困・開発)

(b) 大学院

地域経済論 B (貧困・開発), 南アジア経済特論, ワークショップ (アジア地域経済)

B. ゼミナール

学部前期 (基礎ゼミ), 学部後期, 大学院

C. 講義およびゼミナールの指導方針

学部の講義では, 現代南アジア諸国, 特にインドとバングラデーシュにおける経済の流れを, その歴史的, 政治的, 社会的なコンテクストとの相互規定的な関係を重視しつつ具体的に跡付けることを中心的な課題としている。

大学院の講義においては, 南アジア近・現代経済の特定のトピックを選定し, それに沿って代表的な文献を輪読

し、学期の最後に参加者個々の問題関心に沿った小論文を提出させる。

学部ゼミナールは、3 年次は、夏学期にアジア諸地域経済に関する日本語文献（開発理論と実証研究）を大量に読み、冬学期には英語文献を一冊読み通す。4 年次は、3 年次の内に決定した各自の卒業論文のテーマに関する発表を行う。地域研究ゼミとして、単に開発論の枠組みを学習するだけでなく、専門研究者による実態調査文献を消化し、その上で初歩的ではあれデータを使って自分の主張を論証することを、特に指導している。

大学院ゼミは、参加者が共有できる共通テーマを設定し、それを全員で追究する共同作業と、各自の修士、博士論文の中間発表とを組み合わせで運営している。論文作成にあたっては、内外の実証研究を十分に踏まえた上で、しかし欧米の研究の流行を徒に追うことなく、自ら重要と考える問題を一貫して追究することを、強く指導している。

4. 主な研究テーマ

- (1) 英領期ベンガル農業社会の社会経済史的研究
- (2) 東部インドのエスニシティ・宗教・民族問題
- (3) 現代バングラデーシュの農村社会・経済、農村開発

(1)が私の主要な研究業績群である。1978 年にカルカッタ大学から学位を授与された博士論文は、現在なお当該地域に関する唯一の博士論文であるとして 1995 年バングラデーシュで開かれた歴史協会年次大会において報告を依頼され、その報告はベンガル語に翻訳され、大会報告書に掲載されている。また、私の提示した富農論を巡っては、ネルー大学のダッタ教授と論争が進行中である。その後、研究対象時期を 19 世紀に広げ、ベンガル州各県の地域構造を多面的かつ詳細に分析する基礎作業を続行中である。これも、私の知る限り、我が国のみならず海外においても殆ど未着手の研究領域である。(2)に属する論文は、ベンガル北部のラージバングシーと呼ばれる山岳部族民の平野部ヒンドゥー社会への融合過程の歴史分析として唯一のものとして内外で評価され、これもベンガル語に翻訳されている。(3)としては、1980 年代前半に合計一年間ベンガル辺境の一農村で住み込み調査を行い、農家世帯の家計調査を行い、特に、貧困層の貧困からの脱出への具体的な道筋を探った研究を行い、英文で発表した。これらの個々の家計レベルまで下りた詳細な調査データは、後進の研究者によって利用されている。

5. 研究活動

A. 業績

(a) 著書・編著

Society and Economy of A Rice-producing Village in Northern Bangladesh, Institute For The Study of Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo, 1987, 124pp.

『Report on Native Papers (Bengal) にみるムスリム社会の動向と諸問題(1875 ~ 1888)』重点領域研究「イスラムの都市性」研究報告書 (P 班) (臼田雅之との共編著), 1991 年, 218 頁。

『もっと知りたいバングラデーシュ』弘文堂 (佐藤宏, 臼田雅之との共編著), 1993 年, 286 頁。

Economic Changes and Social Transformation in Modern and Contemporary South Asia, Tokyo, 科学研究費補助金報告書 (研究代表者谷口晋吉), (H.Yanagisawa, T.Shinoda, F.Oshikawa との共編著) 1994, 354pp.

Development and Culture in Asia-Comparative Study on Grassroots Solidarity among Peoples in Asian Countries, ed. by Shinkichi Taniguchi, 科学研究費補助金報告書, 2000, 146pp.

(b) 論文(査読つき論文には*)

(** は編集者からの執筆依頼原稿)

Structure of Agrarian Society in Northern Bengal (1765 to 1800) ", University of Calcutta, 1977, 380pp.

(unpublished Ph. D. dissertation).

- ** "The Permanent Settlement in Bengal and the Breakup of the Zamindari of Dinajpur, " *The Calcutta Historical Journal*, Vol.III-1, 1978, pp.26-55.
- 「英国植民地支配前夜の北ベンガルのザミンダール 所領支配構造を中心として」『アジア研究』25-1, 1978年, 52-86頁。
- 「一八世紀後期ベンガル州北部スワルプル領におけるザミンダール支配の変容 年貢査定を中心にして」『アジア研究』26-2, 1979年, 28-58頁。
- 「一八世紀後期東部インドにおける実物年貢に関する一考察 事例の紹介を兼ねて」『一橋論叢』82-2, 1979年, 230-241頁。
- 「一八五九年ベンガル地代法の一考察」『一橋論叢』85-2, 1981年, 196-217頁。
- "The Patni System A Modern Origin of the subinfeudation of Bengal in the Nineteenth Century, " *Hitotsubashi Journal of Economics*, 22-1, 1981, pp.32-60.
- 「一九世紀初頭北部ベンガルの洋式藍業」『一橋論叢』87-5, 1982年, 629-645頁。
- 「18世紀末北部ベンガルの在来糖業」安場保吉・斎藤修編『プロト工業化期の経済と社会』日本経済新聞社, 1983年, 199-229頁。
- 「19世紀初頭北ベンガルの流通と手工業 ブキャナン報告に基づいて」『一橋論叢』98-6, 1987年, 925-950頁。
- 「18世紀後半北部ベンガルの農業社会構造 (1)」『一橋大学研究年報経済学研究』31, 1990年, 193-248頁。
- 「国家と社会と問う ベンガル」『創文』307号, 1990年, 6-9頁。
- 「バングラデシュ農村における女子労働」成蹊大学アジア太平洋研究センター, 1991年, 40頁。
- 「バングラデシュ女性労働に関するマクロ統計データについて」成蹊大学アジア太平洋研究センター『アジアの女子労働事情()』1991年, 17-30頁。
- 「18世紀後半北部ベンガルの農業社会構造 (2)」『一橋大学研究年報経済学研究』33, 1992年, 83-170頁。
- 「18世紀後半北部ベンガルの農業社会構造 (3)」『一橋大学研究年報経済学研究』35, 1994年, 3-104頁。
- "The Rajbangshi Community and the Changing Structure of Land tenure in the Koch Bihar Princely State, " in S.Taniguchi, H.Yanagisawa, T.Shinoda & F.Oshikawa (eds.), *Economic Changes and Social Transformation in Modern and Contemporary South Asia*, Tokyo, 1994, pp.57-92.
- 「ラージバンシー社会の変容とコッチピハール藩王国土地制度の変遷」『叢書カースト制度と被差別民 第4巻 暮らしと経済』明石書店, 1995年, 193-236頁。
- 「インド史における差別と融合 ベンガルとアッサムを中心として」『一橋論叢』114-4, 1995年, 649-665頁。
- ** "British Shashoner Prarambe Dinajpur Jamidarity Prashashanik Kathamo, " in Sharif Uddin Ahmed (ed.), *Dinajpur: Itihas O Oitihya*, Dhaka, 1996, pp.165-188, (in Bengali).
- 「18世紀後半ベンガル農業社会の貨幣化と農村市場に関する一試論」『一橋論叢』116-6, 1996年, 1027-1048頁。
- ** "Situating Market Relations in the Late 18th Century Bengal, " in *Proceedings of Indian History Congress*, 56th Session, 1996, pp.573-593.
- ** "The peasantry of northern Bengal in the late eighteenth century, " in P.Robb, K.Sugihara & H.Yanagisawa (eds.), *Local Agrarian Societies in Colonial India*, Curzon, 1996, pp.146-198.
- ** "Uttara Bangh O Ashamer Rajbangshi Shampradae" in Shekhar Bandyopadhyay & Abhijit Dasgupta (eds.), *Jati, Varna Abang Bangali Samaj*, Calcutta, 1998, pp. 153-184, (in Bengali).
- ** "The Zamindar's Estate-control on the Eve of the Permanent Settlement in Bengal (1793) -A Case-study of A

Middle-sized Zamindari in Northern Bengal," *The Calcutta Historical Journal*, Vol. XVIII-2, 1998, pp.1-40.

** "A Perspective into the Changing Agrarian Structure in the Koch Behar Princely State during the 19th Century," P.K.Bhattacharyya (ed.), *The Kingdom of Kamata Koch Behar in Historical Perspective*, Calcutta, 1999. pp.171-190.

"Regional Structure of Bengal Agrarian Societies in the Late Nineteenth Century," in Shinkichi Taniguchi (ed.), *Development and Culture in Asia-Comparative Study on Grassroots Solidarity among Peoples in Asian Countries*, 2000, pp.26-61.

"History of Agricultural Statistics of Bengal during Late Colonial Period (1885 to 1947)", *Discussion Paper*, No. DP99-33, Institute of Economic Research, Hitotsubashi University, 2000, 22pp.

「植民地支配期ベンガル農業社会の地域構造 ()」 『一橋大学研究年報経済学研究』 44, 2002 年, 47-102 頁。

「18-20 世紀ベンガルの富農層研究についての覚え書き」 『遡河』 14 号, 2003, 22-29 頁。

「植民地支配期ベンガル農業社会の地域構造 ()」 『一橋大学研究年報経済学研究』 45, 2003 年, 3-106 頁。

「植民地支配期ベンガル農業社会の地域構造 (-1)」 『一橋大学研究年報経済学研究』

「植民地支配期ベンガル農業社会の地域構造 (-2)」 『一橋大学研究年報経済学研究』 47, 2005 年, 83-146 頁。

** "Situating Eighteenth Century Bengal: The Co-existence of " Indigenous Space "and " Colonial Space " 『南アジア研究』 18 号(2006 年 12 月刊行予定)

(c) 翻訳

"Mughal Rule in the Deccan during the Seventeenth Century The Jagir System and Its Decay," Chapter 2 of Hiroshi Fukazawa, *The Medieval Deccan*, Oxford University Press, 1991, pp.49-69.

"The Jagirdari System in Southern Maharashtra During the Eighteenth Century The Case of the Patvardhan Sardars," Chapter 3 of Hiroshi Fukazawa, *The Medieval Deccan*, Oxford University Press, 1991, pp.79-90.

(d) その他

書評:藤田幸一著 『バングラデシュ農村開発のなかの階層変動 貧困削減のための基礎研究』 京都大学学術出版会 2005 『南アジア研究』 18 号 (2006 年 12 月刊行予定)

B. 最近の研究活動

(b) 国内研究プロジェクト

「科学研究費補助金基盤研究(C) (2) 英国植民地支配期ベンガル農業社会の地域構造に関するデータ・ベースの構築と分析」 研究代表者 (2001-2003 年度)

基盤研究(A)(一般)「アジア地域の「グローバル化」 市場, 制度, アクターの長期的考察」 (2006-2008 年度) 研究代表者

6. 学内行政

(a) 部所長・評議員等

評議員 (1997 年 4 月-1999 年 3 月)

副学長補佐 (2004 年 4 月-11 月)

(b) 学内委員会

如水会監査

社会貢献委員会委員

過半数代表者

(c) 課外活動顧問

ハンドボール部

7. 学外活動

(a) 他大学講師等

東京大学文学部非常勤講師

External Examiner of Ph.D. dissertation (Rajshahi University, Kalyani University, Calcutta University, North Bengal University).

一橋大学公開講座講師(2005年度(春季))

東京外国語大学 AA 研「資源人類学」プロジェクトにおける発表:「ベンガル農民と洋式藍業 - 植民地支配と社会的資源 -」2005年

(b) 参加学会および学術活動

日本南アジア学会 (常務理事 2004年10月-)

『南アジア研究』(編集長 2004年)

アジア政経学会

社会経済史学会

京都大学東南アジア研究センター学外研究協力者

Corresponding Editor, Encyclopedia of Bangladesh Project (バングラदेश百科典刊行事業)

学会報告 (第18回日本南アジア大会全国大会 パネリスト 2005年)

講演 (Kalyani University, West Bengal, 2005)

講演 (North Bengal University, West Bengal, 2005)

(d) その他

大学基準協会広報委員 (1999年4月-)